

チャプレンだより

No. 3 / 2014年6月

【発行：関学理工学部宗教主事室】

理工学部宗教主事：前川 裕
©All rights reserved.

「チャプレンだより」第3号をお届けします。理工学部の教員の方々は国立大学の出身者が多いようですし（私も学部までは国立ですが）、関学に来て初めて「宗教」を中心に据えた大学に出会われたのではないのでしょうか。謎や疑問を、ことあるごとに共有させていただければと思います。私自身はキリスト教のみならず宗教学全般についても学んできていますので、どうぞ遠慮なくお問い合わせください。

「イエス」=「名」、「キリスト」=「姓」か？

「イエス・キリスト」はセットで言及されることが多いためか、「イエス」が名前で「キリスト」が苗字だと思っている方も多いのではないのでしょうか。日本では「キリストさん」と呼ぶことも多いですが、それは「キリスト」が姓であるという意識もあるのでしょうか。

「イエス」=「名」は○です。イエスは個人の名前で、当時ごく普通に用いられていた男性の名前でした。では「キリスト」とはなにか？「キリスト」はギリシャ語ですが、もともとはヘブライ語の「メシア」の翻訳語です。「メシア」とは「油注がれた者」の意味で、「神に選ばれた者」であることを示します。つまりこれは「称号」「肩書き」「タイトル」のひとつです。キリスト教の母胎となったユダヤ教には、将来現れるべき理想的な王としての「メシア」への待望がありました。イエスはその流れにある存在と考えられたため、「メシア」と呼ばれることになったのです。

チャペル・アワー案内

理工学部チャペルは、月水金に401教室（チャペル教室）で行っています。270席のサイズをもつチャペル兼用教室は、関学の全学部を通じて最大です。専用チャペルをもつ学部では、だいたい100席程度の大きさです。最上階にあるチャペル教室は天窗があり、（神の住む!?!）空を感じることができます。

春学期も終盤になりましたが、理工学部の先生方にもお話（チャペルトーク）の担当をお願いしています。今学期は北村泰彦先生と北原和明先生にお願いしました。普段とはまた違った角度からのお話、教職員の方々もぜひご出席ください。

またキャンパス自立支援室にもお話をお願いしています。関学の学生支援の現況を伺える貴重な機会です。

【聖書のことば】

「あなたがたは地の塩である」

（マタイによる福音書5章13節より）

イエスが語った言葉です。聖書の中でも有名な言葉の一つでしょう。「地の塩」という句を用いた学校や施設なども各地に見られますが、それらはこの聖句に基づいています。関学では人間福祉学部の聖句となっています。

この言葉の意味を説明しているのは、同じ節の続く部分でしょう。「だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。」言うまでもなく、塩は人間にとって不可欠のものであり、他のもので代替できません。だからこそ古代から国家は塩に税金をかけ、専売を行ってきました（日本の専売公社は1985年まで存続していましたね…お若い方はもはやご存じないかも?）。その塩のように、私たちがひとりひとりがこの社会における不可欠な存在である、とイエスは告げています。

またこの言葉は関学のモットー「マスターリー・フォア・サービス」にも通じる場所があります。塩は不可欠ですが、塩味が目立ちすぎると不快になります。「サービス」もまた、自己主張のように目立つのではなく、隠し味のように存在することが望ましいのではないのでしょうか。さりげなく、しかし不可欠。そのような生き方を、今回の聖句および関学のモットーは指し示していると思います。

私のCV (その3)

小学校時代に愛読していたものの一つは、雑誌『子供の科学』（=通称「コカ」）でした。まず6歳上の兄に対して親が買い与えていたようですが、関心を持ったのはむしろ私の方でした。小学校の図書室にあったものや、古くて払い下げになったものなどを繰り返し読んでいました。「コピー機（当時の名称は「ゼロックス」）の仕組み」や「野球ボールの作られ方」、「雪の結晶の出来方」や「冷凍食品の製造方法」など、今思えばそれなりに最先端の記事が易しく解説されていたものです。二宮先生の紙ヒコーキなどもいくつも作りました（この連載はまだ続いているとか、すごい!）。巻末の広告には電子工作キットなども載っていましたが、さすがにそれらはなかなか買ってもらえませんか、羨望のまなざしで眺めていたものです。私の科学への関心を育んだのが「コカ」でした。良質の科学雑誌は良い手引きとなるものです。

なお私は児童文学などはほとんど読んでいませんでした（家にも一応あったのですが…）が、読解力と表現力はもしかしたら「コカ」で学んだと言えるのかもしれませんが。科学雑誌もなかなか侮れません。（続）

ご意見・ご感想など、なんでもお寄せください…

yutaka.maekawa@kwansei.ac.jp ないし本人に直接…